

そうじの力だより

VOL.214



支援事例紹介

そうじの力で本業のクオリティを高める
〜より働きやすく、よりお客様に満足していただくために〜

島根県益田市に本拠を置く石見交通株式会社を中核に、ガソリンスタンドやLPガス供給、旅行代理店や萩石見空港の地上業務など、七社約二八〇人からなる企業グループです。

ここで、ちょうど二〇年前から、弊社のお手伝いにより、整理・整頓・清掃の活動が行われています。

目的は、「自発性、積極性、協調性を引き出す」「一人ひとりが気づき、安全と接客サービスの向上に繋げる」「従業員のモチベーションを持続させつつ全体のチームワークや連帯感を高め、個々のスキルアップに繋げる」ことです。

各部署、各会社ごとにリーダーを任命し、それぞれで計画書を作成し、二週間単位で活動しています。

この二〇年間で、色々と変遷もありましたが、最近では、あらためて本業のど真ん中のクオリティを高める活動が増えてきたようです。

たとえば、バスの運転士は、バスの清掃に力を入れています。

もともとこの活動を始める前から、バスのボディは毎日洗車機で洗車していました。しかし、車内はあまり清掃していなかったのです。

一〇年前からは、車内も徹底して清掃するようになりました。上部の換気扇も、カバーを取り外して、内部のファンも取り外して丁寧に拭き上げます。座面の裏側や、高い部分の窓ガラス

も、しっかりと雑巾がけしています。

コロナ禍で、活動が少し停滞していたのですが、また

あらためてしっかりとやろうと、計画書を作り直し、毎月一台を指定して、運転士のみならず、経理や総務などの部署も協力して、取り組んでいます。

参加した社員の感想として、「中々、

普段の清掃でここまでやる事は、ないが、こうした活動とおして、車内事故防止教育など、乗務員とティスカッションをする事が出来た」などの声が上がっています。

また、本社の管理部門の取り組みとして、各地のバス待合所の清掃を行っています。

バス停には、標識版だけでなく、ポツ



高いところの照明も拭き上げる



換気扇を取り外してファンを拭き上げる

クス型の待合所があるところがありません。何もしないと、ゴミが溜まったり、ホコリや砂で汚れたりします。

本社では、年内に三〇カ所を清掃する目標を立てて、待合所の窓を拭き、床を掃き、周辺のゴミ拾いなどを行っています。

「バス停清掃中、バスが発着しお客様が乗降されているのを見て、お客様にバスもバス停も気持ちよく利用していただきたいという思いが強くなりました」などの感想が上がっています。



バス待合所の窓を丁寧に拭いていく

そして、ある営業所のバスの整備工場の取り組みとして、部品庫の整理・整頓を進めています。

以前の部品庫はグチャグチャで、どこに何があるか分からないほどでした。昨年からは取り組みを始めて、まずは整理、つまり中身をいったん全部出して、不要なものを捨てました。

次は整頓、つまり分かりやすく取り出しやすいように配置し直すのですが、それにあたって、収納棚や天井、壁を塗り替えることにしました。

もともと木目の無地だった棚は、ま

ず白に下塗りした後、青色に仕上げました。こうすることで、透明トレイに入れた部品が見やすくなりました。

業者を入れず、自分たちでDIYしました。自分たちで行うことで、学びが多くなります。

「今回は仕上がりによって、時間がかかっても丁寧に作業をすることを重視してきました。目標を持って取り組んでいく事の重要さを改めて感じ、この経験が普段の仕事にも生きてくる、そういった活動ができています」という参加者の感想です。

コロナ禍で厳しい状態が続いた旅客業界にも、ようやく光明が見えてきました。今後、そうじの力でさらに良い会社になつていこうと思います。(小早)



透明トレイに入れた部品を収めていく



部品庫の棚をDIYで青色に塗っていく

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



コラム

マスクを外そう！

子どもたちのために、日本の未来のために！

三月十三日、新型コロナウイルス対策としてのマスク着用が任意となりました。ところが、ほとんどの人は今もってマスクを外さず、街の風景はほとんど変わっていません。私の観察では、ノーマスクは多く見積もっても十人に一人です。

もとより、マスクの着脱は個人の自由です。ただ、特段の事情がない限りは、マスクは外すべき、というのが私の意見です。

理由の第一は、新型コロナウイルスは、マスキが喧伝するような恐ろしい感染症ではない、ということとす。

私自身、昨秋にコロナに感染しました。高熱と喉の激痛で辛かったです。やっかいな病気であることは、間違いありません。できれば罹りたくありません。

しかし、季節性インフルエンザと比べるとどうでしょうか。インフルエンザも、相対的に怖い病気です。私の妻は以前に、インフルエンザをこじらせて肺炎になり、一週入院をしたことがあります。

それでも、インフルエンザが大流行する季節においても、皆がマスクを着用する、などということには、ありませんでした。

第二の理由は、新型コロナウイルスの流行は、マスクの着脱によつて左右されるものではない、ということとす。

我々は、ほぼ全国民が、三年前からずつとマスクを着用しているのです。それでも、時に感染者数は急増し、いつの間にか収束していくことを繰り返してきました。こうした波は、マスクの着脱とは一切関係なく起つています。

第三の理由は、マスク着用はデメリットが多い、ということとす。

まず、息苦しい。酸素の取入れ量が減ること、脳への酸素供給が不十分になるという論文も発表されています。また、マスク内に雑菌が繁殖し、不衛生です。肌荒れも増えています。紐をかける耳の付根が擦れて、膿んでしまう人もいます。

そして何より、相手の素顔や表情が見えず、コミュニケーションに支障をきたします。

特に心配なのは、子どもたちへの悪影響です。

子どもは、相手の表情を見て、コミュニケーション能力を自然に体得していくのです。彼らはこの三年間、それができない環境下にありました。彼らが大人になつたときに、それがどのような影響を及ぼすのか、想像もつきません。

我々大人がマスクを外さなければ、子どもは外しません。大人が皆マスクをしていると、子どもたちは、これが正常なんだと思つてしまいます。

逆に、我々大人のほとんどがノーマスクならば、子どもたちはノーマスクが正常なのだと思つて、外すでしょう。

花粉症の人や、本当にコロナが怖い人は別として、それ以外の人、つまり、「何となく周りを見てマスクを続けている人は、ぜひともマスクを外しましょう。

未来の日本をつくる子どもたちを、これ以上スポイルしないために、勇気をもつて行動してみませんか。(小早)

編集後記

傑作

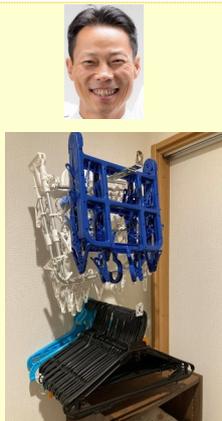
わが家の洗濯機周り。

以前は、洗濯用ハンガーがひとつのカゴにぐしゃっと入れられていました。

ハンガー同士が絡まって取り出しにくく、見た目もイマイチで、どうかしたいと思っていました。

今回、壁にアングルを取りつけて、すべてのハンガーを掛ける形に整えました。取り出しやすく、見た目もスッキリ。

我ながら、傑作。もちろん、妻にも好評です(^)。 (小早)



飛鳥のつばやき

納得のカレー

長男が赤ちゃんの頃から付き合いのある数家族で、毎年バーベキューをしています。

開催したばかりの頃は、アヒージョやスペアリブ、ミネストローネなど、ありとあらゆるオシャレな食べ物を用意していましたが、とうとう今回満を持してカレーを作ることに！

準備期間、材料費、各人の手間、子供の食べっぷり…「楽！」「確実！」「安い！」パーフェクトフードでした。

だからみんな、カレーに行きつくのね(笑)。 (大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)